「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「石巻市協働教育推進事業」（宮城県石巻市）

取組の概要や経緯

学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら、協働し、社会の中で、たくましく生きる子どもたちを地域全体で育む協働教育を推進することを目指している。この事業は、平成２８年度から、原則、同一校に３年間継続して委託し、地域における協働教育の土台づくりに取り組み、各学校の特色ある実践により、児童・生徒の学習活動の質を高めることにつなげている。

飯野川小「田植え」

内容

（１）協働教育推進事業の実施校・・・・・・市内小・中学校１５校へ委託

湊小、稲井小、飯野川小、河北中、北上中、須江小、北村小、桃生小、住吉中、湊中、石巻小、住吉小、広渕小、鮎川小、雄勝中

（２）協働教育支援会議・・・・・・・・・・年２回実施（協働教育事業全体の計画と実施報告及び評価・検証）
（３）協働教育各種研修会・連絡会議・・・・石巻市協働教育コーディネーター研修会を１回実施（県と共催）
（４）協働教育コーディネーター委嘱・・・・市内全小学校へ1名ずつ配置（３３名）
（５）学校支援地域コーディネーター委嘱・・市内小・中学校区２３校へ配置（２５名）

石巻小「交通安全教室」

ポイント

（１）協働教育推進事業は、意向調査により実施校を選考し、事業の実施を委託する。
（２）協働教育支援会議は、石巻市の協働教育事業全体の成果と課題について話し合う場。
（３）協働教育各種研修会・連絡会議は、地域連携担当教員、地域コーディネーター等を対象に実施する。
（４）協働教育コーディネーターは、市内すべての小学校に１名ずつ、学校側の窓口として委嘱する。
（５）学校支援地域コーディネーターは、学校と地域をつなぐ役割を担う、地域側の窓口として委嘱する。

雄勝中「地域防災訓練」

成果

・各地域コーディネーターは、学校の依頼に応じ、学習支援や学区内パトロール、農業体験補助や伝統芸能の伝承に向けての活動に精力的に取り組んだ。また、小中連携のために尽力する姿も見られた。
・協働教育支援会議で各事業の成果と課題を参加者全員で共有し、意見交換することにより、次年度の事業計画の参考にすることができた。

学校支援地域コーディネーター	R1	R2	R3	R4
人数	17	17	16	25

今後の方向性

・協働教育推進事業は、令和２年度から取り組んでいる５校が３年の実施を終え、令和５年度からは新規募集せず、計１０校での実施を予定している。
・学校支援地域コーディネーターの委嘱については、コミュニティ・スクールの導入状況を踏まえた小・中学校区ごとの配置を検討する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「ふるさと子どもカレッジ事業」（宮城県石巻市）

取組の概要や経緯

地域の企業等の協力のもと、石巻の自然・文化・歴史を活かした体験活動を取り入れた講座を開設することにより、子どもたちの豊かな心を育み、自らの故郷について知り、学ぶ機会を創出する事業。

ポイント

✔ 地域の学習力を生かした体験活動（地域産業の担い手などを講師とする）

✔ 通学区以外の同年代の仲間との交流（参加者は市内学校に通う小学5・6年生）

✔ カレッジでしか行けない場所へ行ける（参加者規模・移動手段などの要因）

成果

■ 体験活動をとおして、地域の特色を肌で感じるとともに、仲間と協力して活動することの大切さを学べた。

■ 地元企業の「お仕事見学・体験」をとおして、自分たちの住む地域にどんな企業（や人）がある（いる）のか知ることができる。また、地域の魅力を再発見し、将来の夢や地元就職を考えるきっかけづくりとなった。

今後の方向性

□ 民間企業や大学等と連携し、より多種多様な体験を提供していく。

□ 事業認知度向上のため、市報や学校へのおたよりなどにより、活動内容を周知していく。これにより、さらに多くの子どもたちに体験の機会を提供していく。

内容

	企画名	地区	図No.
1	ジュニア・リーダー（JL）交流／国指定名勝齋藤氏庭園見学	河南	①
2	石巻工業港クルーズ／工場地域見学	石巻	②
3	北上川分流くだり／分流施設見学	桃生	③
4	風力発電出前授業・施設見学	河北	④
5	新しい農業施設見学／ミニトマト出荷体験（収穫・梱包）	北上	⑤
6	ホタテ養殖施設見学・貝さし体験	雄勝	⑥
7	おしかホエールランド見学	牡鹿	ー

①

④

②

⑤

③

⑥

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「子ども読書活動推進事業」（宮城県石巻市）

取組の概要や経緯

ブックスタート事業として、３・４か月健診時に乳児とその保護者を対象に、ブックスタートパックの配布とボランティアによる読み聞かせを実施している。
読み聞かせボランティア等を対象に、年３回の研修会を開催している。

↑ブックスタートパック

内容

ブックスタート事業……健診時に絵本２冊、アドバイスブック、図書館からのお知らせ等を布製バックに入れたブックスタートパックを配布。なお、コロナ禍のため、令和４年度はボランティアによる読み聞かせは中止している。
研修会……石巻市子ども読書推進研修会（１１月）、ブックスタートボランティア研修会（１１月）、読み聞かせボランティア研修会（３月予定）の３回を開催している。

↑研修会の様子

ポイント

①……ブックスタート事業は市内に生まれたすべての乳児、その保護者を対象としている。
②……市内には読み聞かせボランティアがのべ１５６名おり、小学校、図書館等でも活躍している。

成果

・ブックスタート事業……令和４年度は約６００セットのブックスタートパックを配布している（令和５年２月現在）。アンケートでは約９８％の保護者が「ブックスタートにより、子どもへの読み聞かせに繋がる」と好意的に回答している（令和４年度１１月～２月実施）。

・研修会……石巻市子ども読書推進研修会には２６名、ブックスタートボランティア研修会には８名が参加した。

今後の方向性

・ブックスタート事業……令和５年６月からボランティアのよる読み聞かせを再開する予定。乳児が対象となるため、ボランティア参加人数を制限し、感染症対策を取りながら実施する。

・研修会……今後も年３回の開催を続ける。保育所や子育て支援センター等の職員にも周知する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「気仙沼市協働教育プラットフォーム事業」（宮城県気仙沼市）

取組の概要や経緯

公民館を中心とし地域の社会教育団体と連携し，学校・家庭・地域の協働による学びを通した地域コミュニティづくりと，地域住民の参画による地域全体で子供を育てる体制づくりに資するために「気仙沼市協働教育プラットフォーム事業（地域学校協働活動）」として実施。

内容

子供の学習支援を核として，学校・家庭・地域（行政，社会教育団体，ＮＰＯ，企業等）の協働により，深い学び，幅広い世代との交流，社会教育資源の活用を活発に行うことで。地域のコミュニティづくりを推進する。その調整を地域学校協働活動推進員が中心となって行う。

①学校の教育活動への地域住民の参画による支援
②地域活動への子供の参加・異世代との交流
③家庭教育支援事業

ポイント

①地域学校協働活動推進員による事業の立案や学校，関係団体との調整
②地域活動への参加による異世代での交流活動の推進
③シリーズ化したプログラムの実施

成果

・コロナ禍において、実施方法を工夫し、昨年度より多い事業数、参加人数で実施することができた。
・特に学校支援活動では、多くの講師やボランティアに参加してもらったことで、子供の学びや体験活動に深まりが見られた。
・社会教育団体を中心とした地域住民が地域の子供と関わることで地域のコミュニティが活性化した。

	事業数（回）	参加者数（人）
学校支援	90	4454
地域支援	23	683
家庭支援	18	317
合計	131	5454

今後の方向性

・各公民館の特性を生かしつつ、３分野（学校・地域・家庭）の事業をバランスよく取り入れることで、子供の学びや体験の場を保障する。
・各校に設置する学校運営協議会との連携を推進し、地域学校協働活動推進員と地域連携担当を核とした協働教育を推進する。
・地域学校協働活動推進員を核として，地域団体等との連携を深め、ボランティアを確保するとともに、学校支援事業での協力人数の増加を目指す。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「学校を核として」地域・学校が連携・協働する教育活動 （宮城県名取市）

取組の概要や経緯

子供を取り巻く問題が複雑化・多様化している背景を踏まえ、地域と学校が子供の成長を支えるという同じ目的を持って教育課題に取り組むことを目指してきた。その仕組みとして、**小・中・義務教育学校区毎に地域学校協働本部を設置**し、**地域の実情に合わせた活動が持続的に継続的に実施**できるようにしている。

内容

令和4年度は、**市内全小・中・義務教育学校区で事業を展開**した。1つの学校区では**公民館がコーディネート機能**を担い、それ以外の学校区では市が委嘱した32名の**地域住民をコーディネーターが地域の実情に合った活動**を行っている。登下校の見守り・読み聞かせ・ミシン学習補助などの既存の支援に加え、教育課程の中に地域を知る学習を位置づける学校か増え、地域と学校を繋ぐ役割をコーディネーターが行っている。また、地域団体と連携した農業体験や公民館行事に児童生徒が参加するなど、地域活動も行われるようになってきた。中学校では、キャリア教育を行う際の講師の選定や連絡調整等、運営の一部を協働本部が担うことで教員の負担減にもつながっている。

ポイント

①**協働本部と市が委託契約を結び**、市は活動に係る経費を委託料として支払う。
②地域コーディネーター、教員、公民館職員を**一堂に会した研修会を実施**。
③全小学校区にある公民館が、協働本部・活動の**連携・推進に寄与**。

成果

- 多くの方に見守られることで、子供たちの学びや体験活動が充実するとともに、安全の確保につながっている。
- 学校支援に地域住民が参加すること、地域活動に子供が参加するによって地域の活性化につながるとともに、保護者や地域住民の学校に対する理解が深まっている。
- 学校が学習の成果を発揮する場となること、子供たちと関わることが、ボランティアのやりがいにつながっている。

今後の方向性

- 公民館と協働本部・地域コーディネーターが連携することで、コーディネート機能の強化・多様で継続的な活動の実施を図り、名取市らしい体制で取り組む。
- 持続可能な本部運営ができるよう、役員やコーディネーターの育成に努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動の取組事例」（宮城県角田市）

取組の概要や経緯

「第2期角田市教育振興基本計画」の中で目指す「基本目標3」として、「学校・家庭・地域の連携の強化を図り、社会全体で子供を守り育てる環境をつくる」とし、「地域学校協働活動」を推進していくこととしている。

内容

○「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」の開催
○「角田市小・中学校地域学校協働活動の紹介」事例集作成
○地域の教育力を活用した学校教育活動を充実させるために
①教育委員会「学校支援ボランティア」の募集
各学校のボランティア派遣要請を受けてボランティアを学校に派遣できるように学校支援ボランティアの募集を実施。
②社会見学・職場体験・職業人講話を受入れ可能な事業所リストの作成
市商工会、市商工観光課、市内の企業などの協力を得て受け入れ先を確保するため協力依頼の実施。

ポイント

①子どもを地域全体で育むために、地域と学校をつなぐ仕組みをつくる。
②協働による教育活動を通じて、子ども達のコミュニケーション能力の向上や地域への理解・関心を深め地域を担う人材を育成するとともに、地域住民の生きがいづくりを推進し、地域の活性化を図る。

成果

○「角田市地域学校協働活動ネットワーク会議」の開催をすることで、協働活動の振り返り及び次年度の推進について情報共有が行われた。
○「学校支援ボランティア」では地域の教育力を生かした学校教育のさらなる充実を図り、地域に開かれた学校づくりを更に推進するため、市内全戸へちらしを配布し募集をかけたところ、多くの方から申込みがあった。

角田中学校「職業人講話」

枝野小学校「読み聞かせ」

「地域学校協働活動ネットワーク会議」

今後の方向性

○角田市地域学校協働本部を設置し事業計画、また協働活動の検証及び評価を実施する。
○地域学校協働活動ネットワーク会議・研修会を引き続き実施する。
○学校支援ボランティアを随時、学校に派遣する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域学校協働活動（地域活動）の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」（宮城県多賀城市）

取組の概要や経緯

・地域学校協働本部とは、構成員（市内小・中学校の教職員、地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーター、公民館職員等）を中心に、地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもたちの成長を支える活動を推進する組織。

内容

・地域学校協働活動の推進に向けて、より多くの地域住民等の参画による学校・家庭・地域の連携・協働体制「地域学校協働本部」を組織化し、緩やかなネットワークを形成しながら、児童生徒の健やかな成長を支援する。

ポイント

・「地域みんなで子どもたちを育てる」を、テーマに協働教育研修会を実施し、地域学校協働活動の推進に向けた意識づけができた。
・地域学校協働活動において、地域と学校との連携だけではなく、公民館と学校や各種団体ともつながりやすくなった。
・地域学校協働活動の好事例を全体で共有することができる。

成果

・今年度から、地域学校協働本部を設置し、地域みんなで子どもたちを育てる仕組みづくりを始めることができた。
着実かつ緩やかにネットワークを広げ、コロナ禍においても、地域学校協働活動を実施することで、更なる充実を図っている。

今後の方向性

・学校運営協議会も始まるため、同協議会と地域学校協働本部の双方が機能し、両輪として相乗効果を発揮することで、子どもたちを地域みんなで育てる活動の活性化を推進していく。

第1回協働本部会議

協働教育研修会

第2回協働本部会議

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域学校協働活動（学校支援活動）の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」（宮城県多賀城市）

取組の概要や経緯

地域で学校を支援する仕組みづくりを促進しながら、子供たちの健やかな成長を支援するとともに、地域住民の生涯学習や自己実現、住民同士の関わりを強化し、地域の教育力向上を図ることを目的としている。また、今年度より、地域学校協働本部を設置した。地域学校協働活動推進員を軸として、4つの中学校区において学校支援活動を展開している。学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。

内容

地域学校協働本部の4つの中学校区において、地域学校協働活動推進員を中心に、学校と地域との支援内容の検討や情報交換を行い、支援内容を決定していく。

協働教育だよりの発行やホームページにより、学校支援活動について、周知する。

家庭科ミシン　授業支援

ポイント

・地域学校協働活動推進員を中学校区ごとに複数人配置することで、学校からの多様なニーズに応えられるようにしている。

・地域学校協働本部等で、コロナ禍での学校支援活動の事例を紹介することにより、学校と地域の連携・協働の継続を図った。

音楽のお箏　授業支援

成果

・地域学校協働活動推進員が、新型コロナウィルス感染症や学校の状況を理解しながら、学校のニーズに対して、学校と地域のつなぎ役となった。

・コロナ禍での支援活動の事例を紹介することにより、学校・地域ともに安心して活動に取り組むことができ、昨年度より活動支援回数が増加した。

ボランティア感謝の会

今後の方向性

・多様な体験を通して、児童生徒の学びをより充実させることができるような体制（地域学校協働本部）を整備しつつ、多様な地域住民の参画による学校支援活動を展開していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域学校協働活動（地域活動）の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」（宮城県多賀城市）

取組の概要や経緯

【地域活動（地域力向上事業）】
　災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を通して地域教育力の向上を図る。

内容

・市内公民館等の協力を得て、防災キャンプ等を実施し、幅広い年代層（中高生や大学生を含め）の地域住民等との体験活動をとおして、災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を図る。

ポイント

・中学生や大学生等がボランティアとして参加し、グループのまとめ役として児童と一緒に体験活動を行うことは、地域の次代を担う人材育成へとつながっている。
・地域活動の拠点である公民館で実施するとともに、地元企業や防犯対策協議会の協力を得ることで、災害時や非常時に体験活動で得た知識やスキルを発揮することができる。
・コロナ禍において、活動内容を見直し、校外や体育館等の広い場所で活動するなどの感染予防対策を講じた。

成果

・避難所開設のための防災資材組立訓練を行った。また、防災街歩きを行い、自宅や学校以外での災害時に自分の命を守るための知識を学ばせることができた。今回の幅広い年代層での交流は、学びの循環が創出され、地域教育力の向上につながった。

地元企業の講話

中学生ボランティアとの交流

地元企業 垂直避難可能場所

今後の方向性

　地域力向上事業を進めていく上で、防災をテーマに公民館等の協力を得ながら継続的に取り組むことが、次代を担う人材の育成へとつながっていくと考える。今後は、より多くの児童生徒が地域住民と交流できるよう活動内容や周知方法を工夫し、年間通して地域活動が展開できるような計画を立てることも視野に入れていく必要がある。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域ぐるみの教育支援」（宮城県登米市）

取組の概要や経緯

学校・地域教育力向上事業では、協働教育コーディネーターを旧町域毎に配置し、学校と地域住民ボランティアをつなぐことで、相互に協働しながら、地域全体で児童・生徒を育む体制を構築している。

放課後子ども教室では、小学校の余裕教室等を活用し、放課後児童の安心・安全な居場所づくりに寄与するとともに、保護者や教職員以外の大人と触れ合う機会を設け、児童が地域の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進している。

内容

①学校・地域教育力向上対策事業
- 協働教育コーディネーターが学校の支援ニーズに合わせてボランティアを派遣するほか、ボランティアの活動を地域に伝えるため、ボランティアだよりを発行するなど、地域と学校の連携を円滑にしている

②放課後子ども教室
- 地域住民スタッフの見守りのもと、宿題等の自主学習の支援のほか、校庭での自由遊び、身体を使ったレクリエーションを行う

①ボランティアによる支援（登下校見守り、読み聞かせ）

②放課後子ども教室（じゃんけん大会、かるた）

ポイント

①統括コーディネーター（社会教育指導員）を中心に協働教育コーディネーターが連携・協力し合い、ボランティアによる学校支援を継続的に行っている

②地域住民スタッフがコーディネーターとして教室を運営し、学校の授業にはない体験活動や異学年児童との交流を行っている

成果

①協働教育コーディネーターが学校と地域をつなぐことで、教職員のみでは対応が難しい登下校見守りや賞状筆耕などをボランティアが担い、教職員の負担軽減が図られたとともに、児童が地域住民とふれあう環境を整備できた

②地域住民スタッフや異学年児童とのふれあいを通して、児童の豊かな心を醸成することができた

今後の方向性

①ボランティア研修会を開催するなど、ボランティア同士の交流の機会を設けることで意識醸成を図り、継続的に学校及び児童・生徒を支援できる体制づくりを推進する

②令和５年度から登校日毎日開催していた教室を月１回程度の開催へ移行するため、同じ校内で活動している児童クラブと連携しながら、児童の健全育成を図る

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」（宮城県栗原市）

取組の概要や経緯

〇地域住民による、地域に根ざした伝統芸能や農業を子どもたちが体験することによって、世代間交流とつながりの構築を促す。
〇家庭・地域・学校の連携・協働により、地域の教育力向上を図り、地域の子どもたちを育む体制づくりを行う。

内容

【学校支援活動】
　地域人材の活用で、体験活動等をより充実したものにしつつ、教職員の負担軽減を図る。
【放課後子ども教室】
　放課後を利用した、短時間でできるものづくり教室。児童クラブに通う子どもも参加ができる一体型での実施。
【地域活動】
　地域住民やジュニア・リーダーが主体となり、子どもたちの体験活動を企画・運営する。
【地域未来塾】
　教職経験者等による放課後学習会及び夏休み学習会の実施。

成果

地域住民が、学校を始めとする子どもたちの体験活動等に携わることで、内容の充実が図られた。また、顔見知りの地域住民が増えることで、子どもたちがより安心して活動できる場作りが促進された。

ポイント

〇協働教育推進指定校を設置し、活動に係る消耗品費の助成を行う。
〇参加者の声をもとに、活動を計画・実施することで、より地域住民が主体となる活動を推進する。

今後の方向性

〇希望する学校への地域コーディネーター配置を進め、更なる体験活動の充実に努めていきたい。
〇活動に携わる地域住民の高齢化が進んでいるため、新たな人材発掘に取り組むとともに、より多くの人が協働して子どもたちの体験を支える体制づくりを検討していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域づくりの手法としての地域学校協働活動」（宮城県大崎市）

取組の概要や経緯

幅広い住民や地域の多様な機関・団体等の参画のもと「地域学校協働活動」の推進を図り，地域全体で未来を担う子ども・青少年を支え，地域の活性化を図る。

内容

〇地域学校協働本部・・・類似組織含め，4つの本部（5小学校・3中学校）の活動を支援
〇学校支援活動・・・コーディネーター配置と保険加入により，安心して活動できる環境を整備
〇放課後子供教室・・・地域の力を生かし，2小学校区で実施
〇地域未来塾・・・家庭での学習習慣定着のため「サマースクール」
「放課後学び支援」を開講

ポイント

【地域特性】地域の実情に応じた地域学校協働活動の展開
【地域の負担】既存団体を生かし，負担感が増大しないよう配慮
【地域づくり】地域づくりのひとつの手法として位置付け
【人材育成】「地域全体で子どもを育てる機運」とともに，
「地域に育ててもらった感覚」を醸成

成果

〇地域学校協働本部の新規設立（3組織→4組織）
〇地域コーディネーターの配置による新たな支援ニーズへの対応
〇地域未来塾参加者の家庭での学習時間の増加

今後の方向性

〇地域学校協働本部の継続支援と新規設立により，学校・家庭・地域・行政が連携した地域づくりを推進する。
〇新型コロナウイルス感染状況の 動向を見ながら，学校支援ボランティアの間口を広げ，児童生徒との関わりが地域住民の生きがいとなるよう支援する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「山元町地域学校協働活動推進事業」（宮城県山元町）

取組の概要や経緯

「地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク」をテーマとして、地域学校協働活動を推進している。平成30年4月、山元町地域学校協働本部設置要綱、山元町地域学校協働活動コーディネーター設置要綱を施行し、山元町地域学校協働本部を設立した。

統括コーディネーター1名、地域コーディネーター3名、生涯学習課が協力・連携しながら事業を推進し、子供たちの育成と地域づくりを目指している。

内容

○ 地域学校協働本部の整備 ⇒ 山元町協働教育の円滑な推進を図るために、「地域学校協働本部設置要綱」に基づいた協働本部を設置し、これまでの推進組織を基盤としながら、さらなるネットワークの構築を進める。

○ 学校支援活動 ⇒ 学校の学習目標を共有しながら、地域と学校を結び目標達成への活動と組織づくりにより、地域人材探しと活用、学校支援活動の充実を進める。

○ 地域活動 ⇒ 世代間交流、障害者の生涯学習の推進、次世代リーダー養成など、あらゆる人が交流し、学び合いながら、豊かな心、社会性、自主自律、自尊感情を育むとともに、地域の担い手の育成や地域づくりを進める。

障害者の生涯学習「こぐまサロン」

ポイント

① コーディネーターが地域のボランティアとの連絡を密にする。
② こどもセンター、教育総務課等、他課室と連携し情報共有することで事業の推進に役立てる。
③ 生涯学習を通した人材育成システムを築くことで、人材育成と確保に努める。

成果

○ 学校支援活動 ⇒ 学校の担当が替わっても、地域学校協働本部が組織されていることで、人材探しや活動計画の相談ができる点で学校の安心感につながっている。

○ 地域活動 ⇒ 地域の様々な団体支援に積極的に関わることにより、地域住民のコミュニティ形成の場、ジュニア・リーダーの活躍による育成の場となっている。

今後の方向性

○ 地域学校協働本部や取り巻く環境の整備により、学校と地域の双方向での学びを進めるとともに、家庭・地域・学校の教育力向上の促進を図っている。各学校に整備されつつある学校運営協議会との連携を図り、地域学校協働活動を一体的に進めていく。

○ 地域活動では、教育振興基本計画の下、地域の人々が主体的に参加でき、充足感のある事業の在り方を検討し、実施していく。

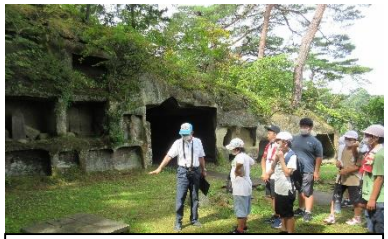
「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「学校支援活動（松島町地域学校協働本部・松島まるごと学）」（宮城県松島町）

取組の概要や経緯

【松島町地域学校協働本部】
・地域と学校が連携・協力するため、地域コーディネーター・地域連携担当教職員・地域住民、有識者等を委員として設置した。
【松島まるごと学】
・松島の歴史と文化を、地域と協働して学ぶ。平成27年度から、町内小学校・学年ごとに共通の学習を年間指導計画に位置づけて実施している。

松島町地域学校協働本部 会議風景



歴史巡り（講師：地元有識者）

内容

【松島町地域学校協働本部】
・各学校のニーズを地域コーディネーターが調査・把握し、要望に合わせた地域人材を紹介・コーディネートした。
【松島まるごと学】
・品井沼干拓学習（小4、講師：地元有識者）、森林学習（小5、講師：宮城中央森林組合職員）、歴史学習＜松島の縄文時代・瑞巌寺の歴史・坐禅体験・歴史巡りの旅＞（小6、講師：教育委員会学芸員、瑞巌寺職員、大仰寺住職、地元有識者）、職業人の話を聞く会（中2、講師：町内事業所の従業員等）

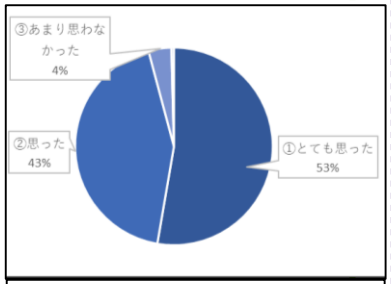
坐禅体験（講師：瑞巌寺職員）

ポイント

【松島町地域学校協働本部】
・観光業・漁業・農業・商工業・体育協会など各団体関係者を委員として構成することで、学校が抱える多様なニーズに応えうる体制を構築している。
【松島まるごと学】
・学校の教科での指導内容に沿った形で、地域の人的・物的資源を教育に活かすようにしている。また、可能な限り実物を見たり触れたりすることができるようにしている。

成果

【松島町地域学校協働本部】
・学校支援活動として職場体験学習（中2）、地域の伝統芸能「大漁唄い込み」の体験（小4）について講師紹介・コーディネートを行った。
【松島まるごと学】
・アンケート調査の結果 学んだ内容を理解できたと回答した児童が98%、松島に関してより興味を持ったと回答した児童が96%となった。また、学習を通じて生じた疑問に対して教育委員会学芸員が後日回答することで、より深い学びにつなげることができた。
・地域と協働して松島の歴史や文化を体験的に学ぶことを通じて、松島に関する理解・関心が高まり、地域住民とのかかわりも深めることができた。



【6年生対象】松島の歴史についてもっと知りたいと思ったか。（n=241）

今後の方向性

【松島町地域学校協働本部】
・教育委員会・地域コーディネーター・学校が緊密に連携しながら、引き続き学校が抱えるニーズを把握し、より充実した学校支援活動の実施・地域の更なる活性化を図っていく。
【松島まるごと学】
・出前授業時のスライド資料やワークシートなどを改良しながら、参加児童が地域の歴史文化をより深く理解し興味関心を持てるよう工夫していく。
・特定の人的・物的な資源に留まらず、さらに幅広く地域の教育資源の発掘を進めると共に、効果的な活用方法を探る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
学校の働き方改革を踏まえた活動（学校支援活動）の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動（宮城県大和町）

取組の概要や経緯

各小中学校において、地域と学校による地域学校協働活動を行い、教育活動の充実を図るため、地域が一体となって子どもを育てる組織を設置している。

令和２年度から組織の名称が変更され、「地域学校協働本部」として、地域と学校が双方向に協力し合い、教育に携わっている。

内容

各地域学校協働本部により各学校における年間の活動を検討し、詳細を学校コーディネーターと地域コーディネーターが調整して実施している。また、上部組織である地域学校協働活動運営委員会では、コーディネーターやボランティア向けの研修会の企画と実施、広報誌の発行などを通して協働教育の普及啓発に努めている。

〇吉岡、宮床、吉田、鶴巣、落合、大和中、宮床中学校区の各地域学校協働本部
- 地域コーディネーターと学校コーディネーターが詳細を調整し、学校教育推進を行う

〇地域学校協働活動運営委員会
- ボランティア研修会の企画、実施、広報誌の発行などの普及啓発活動

ポイント

①学校毎の活動記録写真等を用いた「協働教育カレンダー」「協働教育ニュース」を発行・配布することで、活動の様子を共有している。
②コーディネーターが各学校担当者と打合せを行い、活動をすすめている。
③地域ごとに地域学校協働本部を開催し、活動に関わる各地区団体の長が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。

成果

- コロナ禍で人との関わりが減少するなかで、多様な世代間での交流をすることができた。
- 地域の伝統を学習することで、伝統の継承に繋がっている。
- 活動の中で、地域住民とのコミュニケーションの機会が多々あり、児童の豊かな人間性を育むための一助となっている。
- 地域と学校の交流により、児童生徒の地域への愛着が深まった。

今後の方向性

- 子どもを地域全体で育むために、各地区の特徴を活かした活動を支援する。
- 地域間の人材不足や人数の格差の解消に向けて、地域を越えた活動についても促進する。
- 統括的なコーディネーターの育成を図り、活動毎の連携を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）の取組事例

「色麻町地域学校協働活動推進事業【学校支援事業】【地域活動】」（宮城県色麻町）

取組の概要や経緯

平成17年度から継続している【学校支援】【地域活動支援】【家庭教育支援】の活動を、平成23年度より「協働教育プラットフォーム事業」として実施してきた。

平成29年度より、「地域学校協働活動」として、学校や地域、関係者の連携・協働を強化し、一体的な活動を推進できる体制づくりを目指した。

内容

【学校支援】【地域活動】【家庭教育支援】の各活動分野のコーディネーターと「地域学校協働本部」の企画・調整のもと、各種事業を実施した。

【学校支援】：米づくり・エゴマ栽培・野菜栽培指導、部活動指導、校外学習随行　など

【地域活動】：こどものまち2022(体験活動)

※中止となった事業…サマーキャンプ(野外活動)、こどものまち校外学習2022（野外活動）

ポイント

・各分野のコーディネーターを中心に密に連絡・調整を行い、事業の企画運営を行った。

・学校と密に連絡を取り、意思の疎通を図った上で学校支援を行った。

・町の他地域団体と連携し、事業を進めている。

成果

・新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業もあったが、検討重ね、企画・実施することができた。また今年度の反省を踏まえ、次年度向けて活発な意見交換・検討を行うことができた。

・コーディネーター間での事業の考え方等の共通理解が深まり、意見交換や企画、検討等を行うことができた。

今後の方向性

・来年度以降もコロナ禍の中でどのように事業を運営していくのか引き続き検討し、反省を活かしながら事業を企画していく。

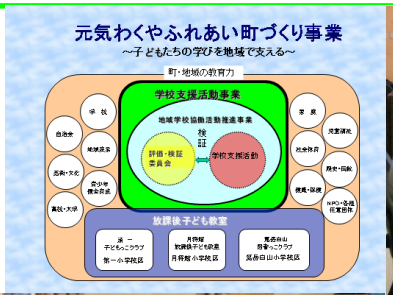
・コーディネーターと学校（教職員）の意見交換等の場を設け、事業の円滑な運営が行えるよう検討する機会が必要。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」（学校を核とした地域力強化プラン）
地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「元気わくやふれあい町づくり事業」～子供たちの学びを地域で支える（宮城県涌谷町）

取組の概要や経緯

平成22年9月に元気わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。
　支援対象は町内全ての小中学校及び幼稚園等まで展開し、学校支援や放課後子ども教室を地域住民と協働し推進している。
　平成28年4月から評価検証委員会を立ち上げ、各事業の課題や効果の測定、事業の評価・検証を行っている。



内容

元気わくやふれあい町づくりコーディネーターが、学校や地域ボランティア等と連絡調整を行い、学校や地域の特色を活かした学校支援活動を行っている。
　放課後子ども教室では、各小学校において、放課後子ども教室のコーディネーターが中心となり、地域性や学校の特性に合わせた事業を企画し、地域の中から講師を依頼するなど地域人材を積極的に活用し様々な体験学習の機会を提供している。

ポイント

①元気わくやふれあい町づくりコーディネーター会議を毎月実施し、支援内容や支援者の検討を行い、情報を共有する。
②放課後子ども教室は、各小学校の地域性や特性を活かした体験型の事業内容を企画。また、地域人材を積極的に活用することで地域との連携・協働の推進と地域コミュニティの活性化を図る。
③町内小中学校を訪問し、各種事業の説明を行い事業の理解、活用、情報の共有を図る。

成果

　学校支援事業においては、地域住民による新型コロナウイルス感染予防対策とし小学校２校で消毒・清掃ボランティアが行われた。
　また、ミシンや調理実習、習字の授業において、地域のボランティアが支援することで、児童一人一人にサポートすることができた。地域の方々が活動することで、地域と学校の自然な交流が推進され、また、居住地域の小学校でボランティア活動をすることにより、地域コミュニティの活性化も図ることができた。
　放課後子ども教室では、新型コロナウイルス感染予防のため、開催回数が少なくなり、また、内容も大きく変更して行われたが、参加児童はたいへん楽しみにしており、地域のスタッフとの交流とともに、地域の中から講師を依頼し、絵手紙教室や創作教室、ニュースポーツ、高校書道部による書道教室等を体験することで、多世代の交流や地域住民との交流を深めることができており、支援しているスタッフや、ボランティアなど地域住民の活動の場づくりや生きがいづくりにも大いに役立っている。

今後の方向性

・学校支援活動においては、学校内にボランティア室を設置し、地域の方が気軽に集える場の設けることにより、スムーズな支援を学校と連携し行う。
・研修会を開催し、これからも継続して活動できるようコーディネーターやボランティアなどの支援者となる地域人材の育成、発掘に努め、また保護者にも参加を促し、協働教育の推進を図る。
・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。